

## 「ならなぎ よりみちクラブ」活動報告

報告者： 玉尾 ひとみ

|                   |                                          |    |    |                        |
|-------------------|------------------------------------------|----|----|------------------------|
| 日時                | 2024 年 11 月 14 日 (木)<br>10 時 00 分 ~ 14 時 | 天候 | 快晴 | コース名：<br>第 51 回よりみちクラブ |
| 案内団体<br>又は催事<br>名 | 室生龍穴神社から室生寺を巡る                           |    |    | 人数<br>大人：17 名          |

集 合：近鉄室生口大野駅  
ガイド：ならなぎ会員 服部さん

行 程：室生口大野駅 10:19 発 → 10:35 バス停龍穴神社前 → 龍穴神社 → 吉祥龍穴 → 龍穴神社(昼食)  
→ 室生寺境内 14:00 解散 室生寺バス停 14:29 発 → 14:46 室生口大野駅  
…全員 14:50 発の大阪上本町行に乗車

出席者…服部 (ガイド)・玉尾洋・堀内け・義田(午前のみ)・上森・嶋田・山口・北川・澤井・木邨・  
橋本・嶋村・田中・豊田・杉林・中澤・玉尾ひ・ 計 17 名…順不同・敬称略

- 10:40 樹齢600年を超すスギの大木に圧倒される。龍穴神社拝殿前からガイドが始まった。  
【龍穴神社拝殿】“善女龍王社”と掲げられている。善女龍王は仏教における龍を統率する女神。  
興福寺とのかかわり…伝説によれば、善女龍王は、かつて猿沢池で暮らしていたが、  
采女が入水したことで池が穢れたと嘆き、一時春日山に避難していた。  
しかし春日山にも死体が多く、清らかな環境を求めて室生へ逃れ、「吉祥龍穴」へ移り住んだという。  
【龍穴神社本殿】春日移しの社殿。ご祭神は高麗神(たかおかみのかみ)  
両脇に道主貫神社(市杵島姫命)、手力男神社が祀られている。
- 11:15 室生川を上流に歩く。吉祥龍穴入口までの道は柱状節理の岩肌が迫る。室生安山岩、榛原石  
と呼ばれる流紋岩質溶結凝灰岩である、という説明あり。
- 11:30 【吉祥龍穴入口】。川岸まで用意された杖を片手に 100 段ほどの階段をおりていくと、板の間の  
遥拝所がある。かつては雨乞いの神事が行われてきた。靴を脱ぎ、スリッパに履き替えて祈願する。
- 12:30~12:50 龍穴神社に戻り、付近でお弁当
- 13:00 【室生寺】1 キロほど下流へ歩く。赤い太鼓橋を渡ると室生寺境内に到着。  
各自、拝観料600円を支払って境内へ。仁王門のあたり、紅葉が美しい。  
・起源…室生山中での祈祷により、病が回復した山部親王(桓武天皇)が、興福寺の僧、賢璟・修園に  
命じ建てさせたという。以後長く、興福寺の別院であったが、江戸時代、桂昌院の加護を受け  
興福寺から独立、現在は真言宗室生寺派の大本山であり、「女人高野」として親しまれている。
- ・金堂…屋根は柿葺きの寄棟造り。古風な佇まいが重みを感じさせる。  
現在のご本尊は釈迦如来であるが、かつては薬師如来ではなかったか？との説あり。
- ・本堂(灌頂堂)…檜皮葺入母屋の屋根は少し先が跳ねた形。大仏様と和様の折衷という。  
ご本尊、如意輪観音菩薩像のお姿が、手前に掲げられた写真より輝いていた。  
寺の人の説明によると、最近国立博物館でメンテナンスをされたのだそうだ。
- ・五重塔…屋外に建つ五重塔では国内最小。相輪は、九輪の上にふつう水煙を置くが、水瓶が  
置かれている。その中に龍を閉じ込めたという。他に類を見ない珍しい形である。  
平成 10 年の台風で傷ついた屋根が一部金属でカバーされていた。痛々しい！
- 14:00 境内で解散 各自お土産を購入してバス停へ・

### 【所感・雑感・反省点、申し送り事項等】

晩秋にしては温かい秋晴れの日、行楽日和に恵まれた。

服部さんの軽妙で詳細な説明は、皆さんに興味をもって聞いてもらえたと思う。

春日大社一の鳥居の上で昼寝していた龍が、ここに移り住んでいたのか！と想像すると、ならなぎとしては、  
楽しい。増便が必要か？と心配していたバスだが、すんなり乗ることができて良かった

